

株主の皆さまへ

2017年度（第65期）上半期【2017年4月1日～2017年9月30日】



Index

社長インタビュー	1
地域別セグメントの業績（上半期）	3
連結財務諸表	4
役員対談	5
FOCUS	7
トピックス	9
製品紹介	10
会社概要／株式の状況	裏表紙





ご挨拶

株主の皆様には、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに、当社グループの事業概況やその取り組み、成果等についてご報告申し上げます。

2017年11月

代表取締役社長 山口 次郎

Q1 当上半期は計画を上回りました。好業績の要因についてお聞かせください。

A 二輪部品や自動車組立が当初計画を上回ったことをはじめ、四輪部品の燃料タンクとサンルーフが順調に伸びたことにより、増収と利益改善が進みました。特にサンルーフの中国市場ではHondaに加えて吉利汽車との取引が伸びました。

二輪部品は、タイやベトナムで通勤に用いられるような小型バイクの需要が伸び、二輪部品の製造・販売を行う合志技研工業（連結子会社）が業績に寄与しました。

これらに加え、下期における全地域での自動車部品の受注増加などにより、7月28日に発表した通期業績予想を上方修正しました。

これを踏まえ中間配当は、1株につき16円とし、期末配当予想につきましても16円、年間で32円（計画比2円・前期比4円 増配）としております。

Q2 先ごろ、完成車事業をHondaへ譲渡する協議が始まったとのことですが、どのような狙いがあるのでしょうか。

A これは、Hondaが当社の完成車事業の完全子会社化を検討する基本合意書を両社で締結した、というものです。

当社は、Hondaからの受託事業として、完成車の生産を行ってきました。近ごろでは、少量生産の強みを活かし、Hondaの量産ラインではつくるのが難しいクルマを世に送り出しています。その代表が軽オープンスポーツS660です。

今回のHondaの提案には、電動化や人工知能化など新技術の急速な進展を背景に、日本の四輪生産体制を強化する狙いがあります。そのひとつとして、当社の四日市製作所におけるクルマづくりをHondaの事業戦略と迅速かつ柔軟に連携させていく考えです。当社としては、Hondaグループとしての四輪生産体制の強化と、四日市製作所の人と技術が最大限に活かせるという判断から応じることにしました。

当社はこれまで、厳しい環境規制に対応する燃料タンクや、大開口で爽快感あふれるパノラマサン

ルーフなどを実現してきました。今後は、高圧タンクやCFRP*技術の開発をさらに進めるとともに、主力製品に続く次世代の新価値創造に向けた仕込みに力を入れていきます。

※炭素繊維強化プラスチック

Q3 働き方改革が話題となり、また事業の持続可能性もより重要視されています。ヤチヨはどのように取り組んでいきますか。

A 社会問題化している長時間労働については、当社では有給休暇は確実に取得されており、健康に支障の出る残業もありません。当社における働き方改革は、従業員一人ひとりが成長するための“チャレンジできる環境づくり”です。そのためには、コミュニケーションを今以上に活性化させて仕事の効率を上げること、従来の仕事の延長ではないチャレンジができる時間を生み出していきます。つまり、従業員の成長を促し、仕事が楽しくなる、そして日々の生活が充実し、結果として生産性がさらに高まる、というわけです。

持続可能な社会の実現については、地球資源の大きな恩恵を受けて企業活動を行う当社としても、CO₂排出量の低減など環境保全活動に取り組むことで、低炭素社会の実現に寄与していきます。

また、燃料タンクは見えないところでクルマのある生活を支え、サンルーフは開放感を楽しんでいただくなど、製品と技術を通じて社会にヤチヨならではの価値をお届けしています。GRC*の観点では、ヤチヨ企業理念に基づいた誠実で倫理的な行動として『ヤチヨ行動規範』を見直し、健全な企業活動に向けて取り組みを強化しています。

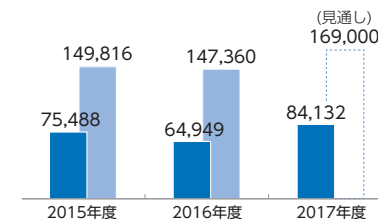
株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループへのご理解とともに一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※ガバナンス、リスク、コンプライアンス

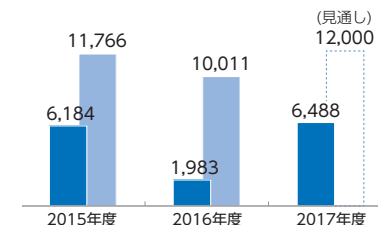
連結業績ハイライト

■上半期 ■通期
(単位：百万円)

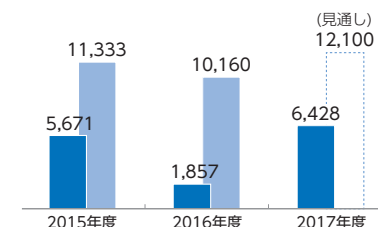
売上収益
84,132
百万円
(前年同期比29.5%増)



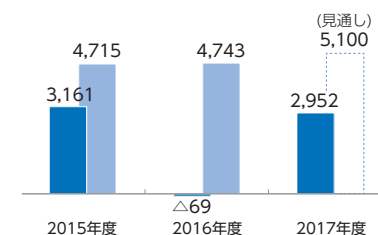
営業利益
6,488
百万円
(前年同期比227.2%増)



税引前利益
6,428
百万円
(前年同期比246.1%増)

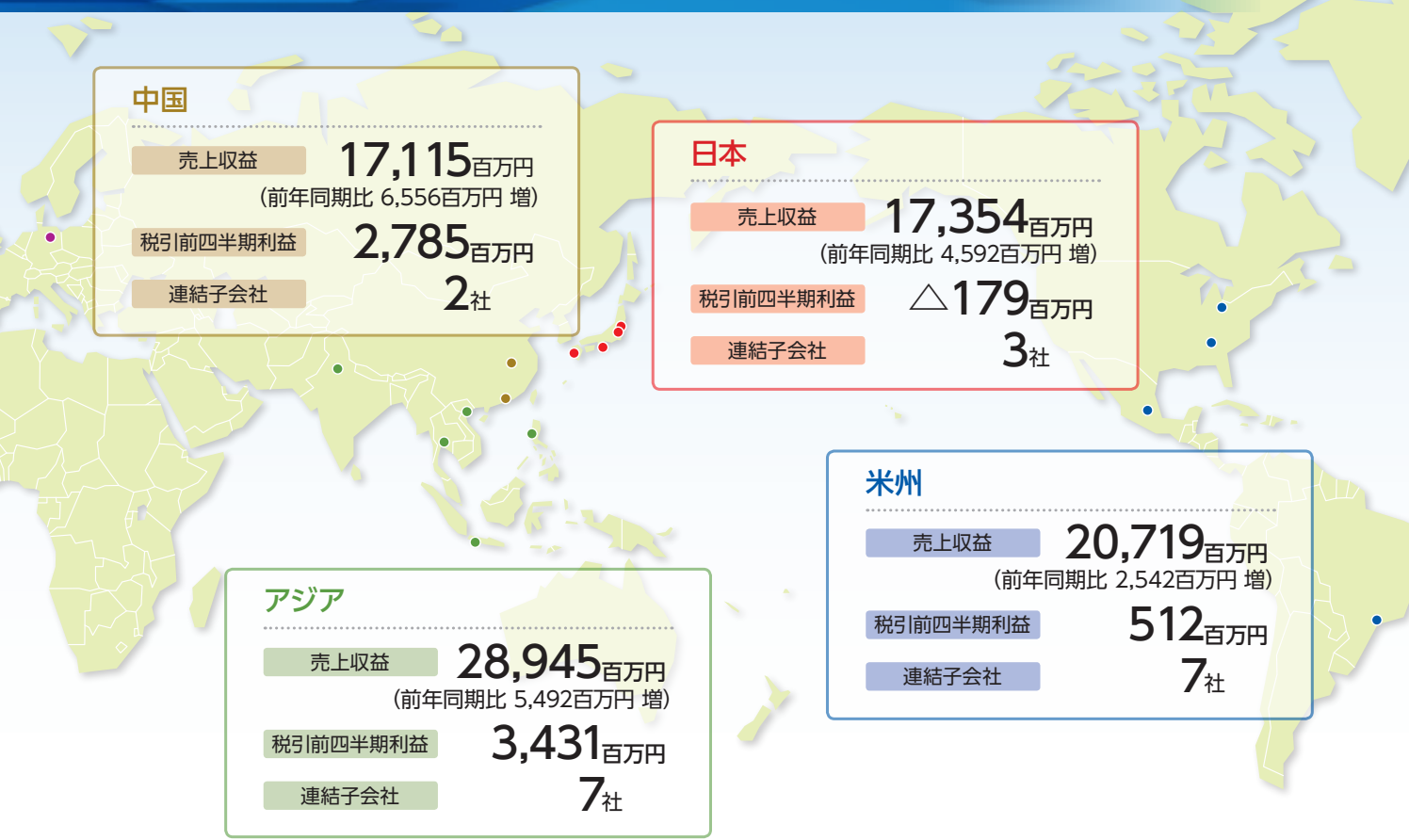


親会社の
所有者に帰属する
当期利益
2,952
百万円



当社は、国際会計基準に基づいて連結財務諸表を作成しています。

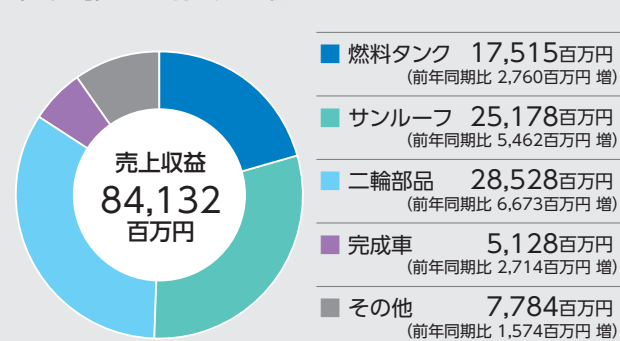
地域別セグメントの業績（上半期）



ポイント

- 日本** 自動車組立及び二輪部品の増収増益
(前期、熊本地震による減産影響からの回復)
- 米州** 自動車部品の増収
機種構成差及び新機種の立上り費用の増加などにより減益
- 中国** 自動車部品の増収増益
- アジア** 自動車部品及び二輪部品の増収増益

(ご参考) 製品別の売上収益

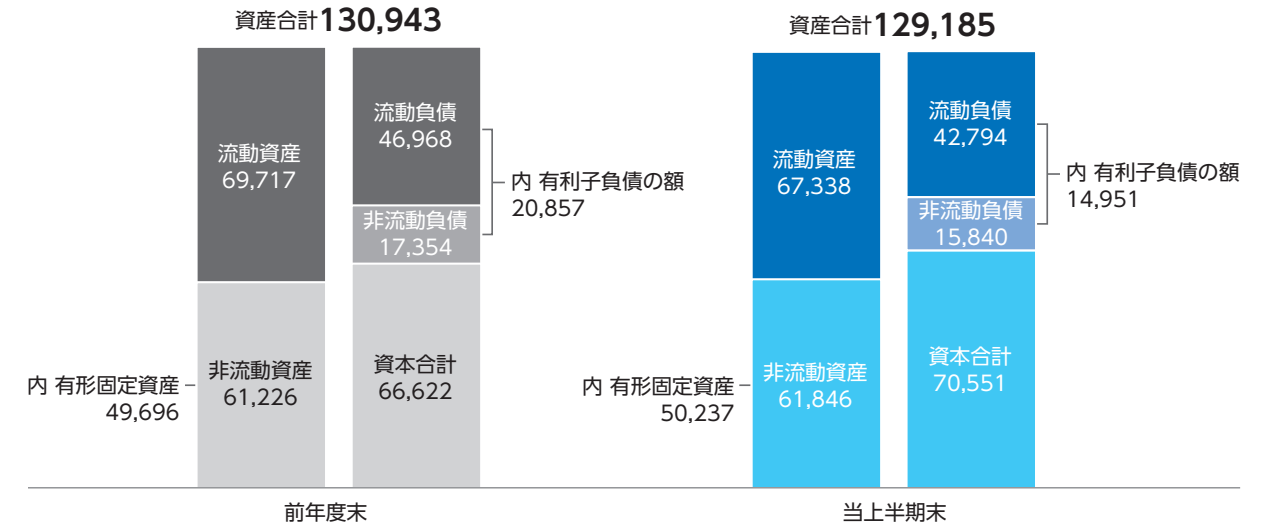


※その他内訳：補修部品、板金部品、試作売上等

連結財務諸表

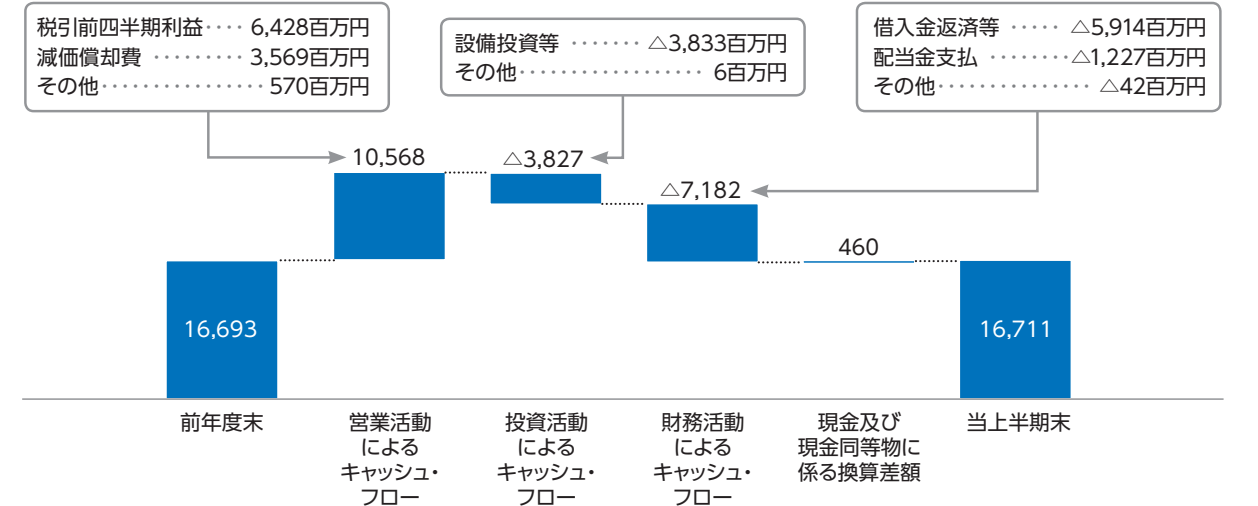
連結財政状態計算書

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)



クルマの新しい魅力を育てる企画提案型のサプライヤーへ



東京モーターショー2017出展を通して、ヤチヨの将来技術をPR

山口 今回の東京モーターショーには、『笑顔運ぶクルマの鍵“key”になろう』をテーマに、主力製品の燃料タンクとサンルーフ、運転補助装置、S660のカスタマイズパーツなどを展示しました。サンルーフは室内から空を見上げて笑顔になれるもの、運転補助装置は障がいのある方にもっと笑顔で運転を楽しんでもらえるものを目指しましたが、手応えはどうか。

安田 人気のS660をさらに個性的に見せるカスタマイズパーツは根強いファンの注目を感しました。軽量カーボンルーフは、「軽いなあ」と実感してもらい、発売が望まれているのを感じましたね。

山口 S660はこれからも、私たちの大切な宝物。魅力的なパーツで育てていきたいですね。

安田 手動運転補助装置は、アクセルやブレーキをメカ式から電子制御式にし、いわゆる“バイワイヤ”化しようという提案です。音声認識でライトが点灯すると、「おっ!？」というような反応をいただきましたね。

山口 これが実現できれば、もっと大勢の障がいのある方に自ら運転し自由に移動できる喜びをお届けすることができ。お客様の笑顔を思い浮かべて、チャレンジしていきたいですね。

新しい価値を加え技術・製品で世界一／世界初を

山口 モーターショーでも、クルマの電動化や自動運

転が話題でしたが、移動手段を目的としたクルマ以外に、生活をより豊かにするための提案も多く見られました。

安田 “先を読む力＝センシング機能”の強化は今後の大きな流れです。世の中や他社の動きにも目を向け、そうした動きを知ったうえで、開発の方向性を決めたいと思っています。

山口 自動車部品の市場はまだまだ伸びる余地があると見ていますが、自動車メーカーの多くがオープンイノベーションを掲げ、自分たちでできないところは他の企業と協力する動きが加速しています。自動車部品のサプライヤーもメーカーと対等に渡り合える力を身に付けないといけません。

安田 これからは「こんなものができました。採用しないと損ですよ」と自ら進んで提案できなければ生き残れない時代です。すでに欧州の部品メーカーでは、当たり前のようにそうした動きが始まっていますよね。

山口 まさに自動車の戦国時代ですね。ヤチヨ独自の創造力、新価値創造が必要です。ヤチヨは世界一／世界初の技術・製品を目指しているわけですが、完成車メーカーに言われたことだけをやっていても世界一や世界初のものはつくれません。自らの感性や感性をもっともっと磨いていきましょう。

次の10年に向けた価値創造の土壌づくり



山口 次の10年に向けて、従業員から『NEXT10』というアイデア公募をしていますが、どんなアイデアを期待していますか。

安田 2030年のゴールに向けて毎年

新しいアイデアを募る、これは本当に楽しみです。今までやってきた生産の改善提案の枠を超えて、もっと自由に、ヤチヨの新しい価値創造につながる提案ができるので、ヤチヨの勝ち技にも結びついたらいいですね。

山口 私たちが生き残る道は、個性あるクルマづくりにつながる提案です。自動車部品はもちろん、こんなクルマがあったらという趣味の延長の提案でもかまわないわけです。“趣味宣言”は、大きな可能性を秘めています。

安田 それが魅力商品創造につながるという点では、ドイツで提唱されている“第4の産業革命”インダストリー4.0。日本ではこれを、製造コストを削減する効率化の動きととらえがちですが、本当の狙いは商品の“魅力づくり”にあります。その姿勢は見習いたいですね。

山口 いま取り組んでいる17-19中期事業計画では、燃料タンクやサンルーフの進化を目標にし、新しい成果も生まれていますが、それだけで10年先まで生き残るのは不可能です。

安田 第3の柱になるような提案を通して、ヤチヨブランドを確立し、世界のトップランナーを目指していくわけですね。

山口 そうやって、価値を生み出し続ける土壌を育むことが、生き残るカギだと思っています。株主の皆さまには、そんなヤチヨのチャレンジに期待していただきたいですね。



未来の笑顔につながる“ものづくり”を世の中にPR

第45回 東京モーターショー2017に技術・製品を展示



いま当社では、世の中の動きやニーズの先を読み、常に新しい価値を生み出し続ける力を強化する取り組みを進めています。その一部を、『東京モーターショー2017』へ技術・製品PRとして出展しました。

笑顔と感動を生み出すものづくりに向けて

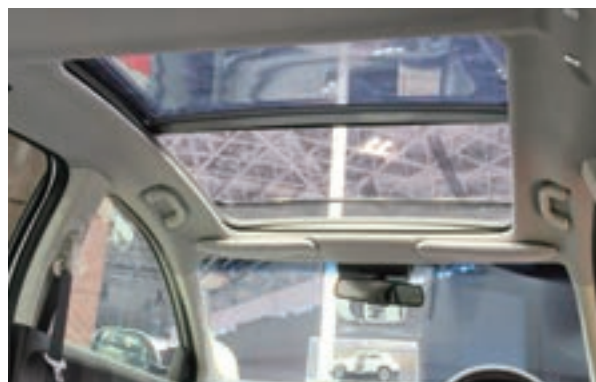
当社は今回の出展テーマを、『笑顔運ぶクルマの鍵“Key”になろう』としました。私たちは、自動車メーカーへ部品を納めるその先に、ユーザーであるお客様の姿を常に想像しています。環境にやさしく使い勝手に優れた製品づくりはもちろん、お客様の喜びや感動にまで思いをはせるということです。

こうした考えから、製品紹介に加え、人々の生活

を支え、笑顔を生み出す技術をご理解いただく出展としました。

暮らしの喜びにつながるヤチヨ製品

お客様が直接的に喜びを感じられるものとして、大開口パノラマサンルーフとHonda S660向けのカスタマイズパーツを出品しました。サンルーフは大きなガラスエリアを備えるパノラマ型が拡大を続けてお



フロントウィンドウやドアガラスにつながるほどの大開口サンルーフ



“S660＝ヤチヨ”という認識が広く浸透していることを実感

り、クルマ本体のサンルーフ開口部の剛性強化まで踏み込んで開発し、より高い意匠性も追求しながら、“サンルーフが備わるクルマのある生活”という魅力を広げています。

カスタマイズパーツ*は、S660のつくり手として「この個性的なクルマをもっと楽しんでほしい」という思いから生まれました。当社が創業から大切に育ててきた塗装技術によってお客様に商品をお届けしています。また、S660向けの軽量カーボンルーフを参考出品し、オーナー様の強いニーズが寄せられていることから、商品化を検討していきます。

※P10『製品特集』に紹介していますので、ご覧ください。

また、当社は障がいをお持ちの方が運転できる運転補助装置の適合開発や架装を手がけています。今は各コンポーネントの作動は機械式ですが、今後のクルマの電動化拡大に向けて、『電子制御による手動運転補助装置』の開発を進めています。障がいを持つ方々お一人おひとりにとって運転する喜びは大きいものと思います。一般の乗用車がますます進化する中、福祉車両にも新たな進化を芽吹かせる、これこそ“喜びを生み出すものづくり”だと確信しています。



合志技研工業（連結子会社）のメタルキャタライザーやマフラーなど二輪部品も展示

新たなものづくり文化の定着へ

このように、喜びや笑顔をお届けできるものづくり力を磨き、自動車メーカーへの積極的な技術や製品の企画提案を目指していきます。今回の出展では、当社の技術や製品を通じて、ものづくり企業としての将来像を多くのお客様に感じていただきました。お客様の期待やフィードバックを、“先を読む力”や“喜びを生み出す力”に変えていきます。

当社は、ヤチヨ発の価値を提供し続けられるよう、新たなものづくり文化を醸成し、お客様に笑顔と喜びをお届けできる製品づくりを目指していきます。



主力製品である燃料タンクの進化として、当社が初めて手がけた鉄製と樹脂製、“電動化”向けの最新技術を展示

お客様の生活を支える特装車『災害初期支援車』を開発

日本各地で、台風やゲリラ豪雨などによる大きな災害が頻発しています。このような災害に対しては、地域の住民や事業者が協力して被害を防いだり、被害を最小化したりするための「地域防災計画」の策定が呼びかけられています。当社は、この防災計画に基づき備えていただく道具として、また、万一の被災時の頼れる相棒として、災害初期支援車を開発しました。

四日市製作所で生産するHondaアクティ特装車シリーズのダンプをベースに、被災直後の地域コミュニティによる救助導線の確保といった状況を想定し、重量物の撤去や障害物の引き上げを行うためのクレーンおよびウインチを搭載しました。また被災時のみならず、普段の地域防犯活動や環境美化活動などでの活用も想定し、拡声器やパトライトなども備えました。

この災害初期支援車を第45回東京モーターショー2017に参考出品し、たくさんのお客様にこのクルマに込めた思いや有用性をご理解いただきました。当社は今後も、これまでに培った架装技術やものづくりのノウハウを活かして、世の中のお役に立つ製品を提案していきます。



クレーンとウインチを操作しお客様にデモンストレーションを披露



(一社) 日本自動車車体工業会の働くクルマ合同展示へ出品

ヤチヨのアスリートたちが次々と快挙を達成！

八千代工業 陸上競技部は、18回目の挑戦となった『第70回 十和田八幡平駅伝競走全国大会』で、1区から一度も先頭を譲ることなく悲願の“完全優勝”を達成しました。1991年に創部し、1998年に初出場して以来の快挙を成し遂げました。

また、毎年出場している『第58回 東日本実業団対抗駅伝競走大会』においても過去最高の7位入賞となり、8年連続13回目の『ニューイヤー駅伝2018』への出場権を獲得しました。チームは今までにないほどの勢いを感じており、元日に過去最高順位を目指します。



“十八駅伝”初優勝のゴールテープを切る歓喜の瞬間(5区：千葉選手)

女子車いすマラソンで世界と戦う土田選手は、リオパラリンピック後、選手としての新たな進化を目指して、今年の前半までクロストレーニングとしてパラトライアスロンに取り組んできました。5月13日に参戦した世界トライアスロンシリーズ横浜大会(女子 PTHC・車いす)では、初挑戦で見事に優勝を成し遂げました。

これからもヤチヨのアスリートたちは、さらなる高みを貪欲に目指していきます。引き続き、皆さまからの応援をよろしくお願いします。



初挑戦で初優勝という快挙を達成

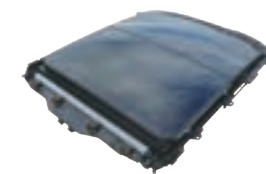
主な製品

四輪部品

樹脂製燃料タンク



サンルーフ

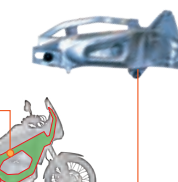


二輪部品

フレーム



スイングアーム



マフラー



メタルキャタライザー



完成車

アクティ・トラック



法人特装車
(アクティ・バンヘ架装)



製品特集

Yachiyo Styling Parts for Honda S660

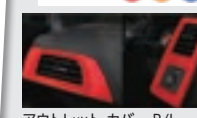
Honda S660をドレスアップするヤチヨオリジナルの樹脂塗装パーツを2017年10月16日に発売

Interior Styling Parts



落ち着いたあるソフトな質感と高彩度な色調で内装を演出

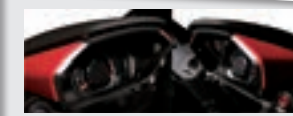
全3色



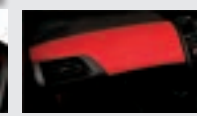
アウトレット カバー R/L



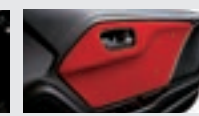
センター パネル カバー L/R



メーターバイザーカバー R/L



アシスタント パッドカバー



ドライビング カバー R/L

Exterior Styling Parts



純正ボディーカラーに合わせた色で外装をより精悍に引き締める

全6色



ロールバーカバー R/L



リアライトパネルカバー

商品紹介および販売ウェブサイト ● <https://ssl.yachiyo-ind.jp/customparts/>

- Honda S660は本田技研工業株式会社の製品であり、本パーツは当社が開発し製造および販売を行っています。
- 本商品はパーツを提供するものであり、コンプリートカーではありません。
- 各パーツ660点の限定販売です。商品の詳細やご購入については、専用ウェブサイトをご覧ください。



会社概要／株式の状況 (2017年9月30日現在)

会社概要

社名	八千代工業株式会社
英文社名	Yachiyo Industry Co., Ltd.
設立	1953年8月27日
資本金	3,685,600,000円
従業員数	単独 1,358名 連結 7,285名
本社	〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地 04-2955-1211(代表)

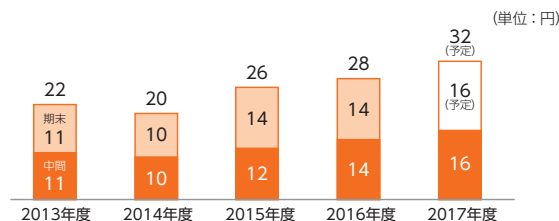
役員

代表取締役社長	山口 次郎	常務執行役員	木原 浩之
代表取締役専務取締役	藤本 朋宏	常務執行役員	安田 哲
常務取締役	太田 康	執行役員	栗原 貞幸
常務取締役	北村 哲也	執行役員	寺田 好伸
常務取締役	尾関 健一	執行役員	長谷川吉保
取締役	松原 美樹	執行役員	堀田 貢市
取締役	横瀬 勉	執行役員	三島 清憲
監査役(常勤)	松川 実	監査役	山室 恵
監査役(常勤)	富永 和也	監査役	村松 昌信

(注.1) 横瀬勉氏は、社外取締役です。

(注.2) 富永和也氏、山室恵氏および村松昌信氏は、社外監査役です。

配当金の推移



当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、世界的視野に立って事業を展開し、企業価値の向上に努めております。

成果の配分にあたりましては、今後の資金需要などを総合的に考慮し、配当につきましては、長期的な視点に立ち連結業績を考慮しながら実施することを方針としております。

株式の状況

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済株式の総数	24,042,700株
株主総数	2,384名

大株主の状況

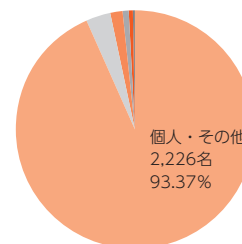
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
本田技研工業株式会社	12,103	50.34
大竹栄一	1,312	5.46
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライスド ストック ファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ) (常任 代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	940	3.91
株式会社SBI証券	697	2.90
株式会社三井住友銀行	457	1.90
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	452	1.88
埼玉車体株式会社	438	1.82
八千代工業従業員持株会	417	1.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	350	1.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	241	1.00

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数は全て信託業務に係る株式です。

所有者別株式の分布状況

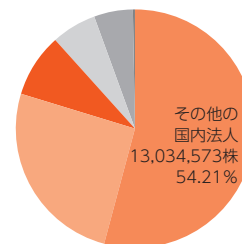
株主数および比率 (合計2,384名)

外国人	83名	3.48%
その他の国内法人	38名	1.59%
証券会社	23名	0.97%
金融機関	13名	0.55%
自己名義	1名	0.04%



株式数および比率 (合計24,042,700株)

個人・その他	6,183,309株	25.72%
外国人	2,030,900株	8.45%
金融機関	1,462,400株	6.08%
証券会社	1,302,270株	5.42%
自己名義	29,248株	0.12%



八千代工業株式会社

埼玉県狭山市柏原393番地

電話04 - 2955 - 1211 (代表)

<http://www.yachiyo-ind.co.jp/>

